

第14期千葉県生涯学習審議会第3回会議 委員意見への対応

番号	意見の概要	意見への対応	対応箇所
1	生涯学習の実施状況について、生涯学習をしたことがない人の割合が、国の調査では5割、県の調査では1割以下となっている。質問内容が、国の調査は学習の内容で、県の調査は学習の形態である。この2つを比較するのはどうなのか。 (安藤委員) 学習の実施率については、これまで同様の調査を実施しても、調査によって回答結果にばらつきが出ている。 (乾委員) 答申に載せるか参考とするか、事務局で検討していただきたい。 (重栖議長)	国調査と県調査では、調査方法及び質問内容が異なるため、県調査データを削除。 推進の方向性に、H4～H30 国調査の「生涯学習の実施状況」を追記。今後、R4 県政世論調査の「今後学習したい内容」を追記予定。	第1章 1(2)ア P.2、3
2	これまで果たしてきた公民館の役割を総括し、今後、どのような可能性があるのか示してほしい。地域の人たちが地域の課題を考えることが重要だとすると、そういう場を大事にすることが必要ではないか。 (久留島委員)	現状の市町村部分に、公民館の役割を追記。 推進の方向性に、様々な分野における地域づくりに資する社会教育の振興方策への期待を記載。	第1章 2(1)ア② P.8 第2章 3(1)ア P.27
3	公民館をはじめ、博物館や図書館、文書館を含めた連携が本来必要で、それぞれの特性を生かして生涯学習推進を担っていることを示していただきたい。 (久留島委員)	推進の方向性に、社会教育施設間の連携を推進する機会の充実について記載。	第2章 3(4)ア P.32
4	人生を豊かにするために学習成果を活用する人が半分以上であり、この事実を前提として今後の方向性を考える必要がある。 (久留島委員)	推進の方向性に、県の役割、市町村・民間への期待として、人生を豊かにする学習の推進について記載。	第2章 3(1)ア P.27 P.28
5	生涯学習が、職業訓練のみに限定されているようなイメージがついてしまうのは嫌だと思っている。身近な学びをどう捉えていくかが重要だと思う。人をどのように育てていくのかは非常に大事であり、あえて職業につながることを連想させるようにしない方がよいのではないか。 (濱詰委員) 千葉県の生涯学習はリカレントの方にシフトしていきそうだと感じた。身近な学びと職業につながる学びは分かれなことが大事だと思う。自分の人生を豊かにしていくために、新しいものを獲得する学びというような感覚ではないか。 (安藤委員)	活躍イメージに、地域社会での活躍と産業人材としての活躍を並記。	【参考】 P.33

6	<p>イメージ図には、産業界のニーズを共有としか書いておらず、地域社会が抜け落ちている。産業界のニーズだけでなく、地域社会のニーズをどう捉え、それにいかに応えていくかが大事である。（久留島委員）</p>	<p>推進の方向性、活躍イメージに、市町村の連携体制による地域ニーズの共有を記載。</p>	<p>第2章 3(4)ア P.32 【参考】 P.33</p>
7	<p>市町村が、地域の担い手を作る目的で学習機会を提供したりすることが多いと思うし、市町村や民間から「学びの総合窓口」を案内してもらうこともあると思う。「学びの総合窓口」に関する役割分担を明確にした方がよい。（濱詰委員）</p>	<p>推進の方向性に、相談内容に応じた県の学習相談窓口への接続を、市町村や民間へ期待する旨を記載。 活躍イメージに、「学びの総合窓口」を中央に配置し、他機関からの情報の流れを明示。</p>	<p>第2章 3(2)イ P.30 【参考】 P.33</p>
8	<p>学習情報の収集について、あらゆる情報の収集というのは非常に難しい。ありのままのデータベースをつくるよりも、学習機会を調べる援助の仕方を開発することを重視した方がよい。（乾委員） ご本人の人生なので、本人がどういう学びが好きで、どういう特性があってというように、自分で選び取る本人の力を信じて、あくまで援助者であるという立場が大事であると思う。（式場委員） 「学びの総合窓口」で、専門的な方たちがきちんと報酬を得て活動できる場所をつくらないとなかなか実現していかない。（田中委員）</p>	<p>県はできるだけ多くの情報を収集し提供することになるが、全てを収集することは事実上難しい。 推進の方向性に、個々の目的に合わせた伴走型支援の必要性について記載。</p>	<p>第2章 3(2)イ P.29</p>
9	<p>学習相談について、どこで直接的な支援を行うことができるかについては、一番工夫しなければならないところだと思う。 最初は学ぶ目的で来ていない方々に対して、学習が自身の課題解決につながるかもしれないという案内をできる場所が県内いろいろなところでできればよいと思う。（乾委員）</p>	<p>推進の方向性に、周知及び県の学習相談窓口への接続を、市町村や民間へ期待する旨を記載。</p>	<p>第2章 3(2)イ P.30</p>
10	<p>県の職員がキャリアコンサルタントの資格を取得するのはどうか。政策としてアピールできると思う。社会教育士とキャリアコンサルタントを取得した県職員がチームをつくって「学びの相談窓口」を担うべきだと思う。政策の中に入れることに意味があると思っている。（久留島委員） 社会教育関連の部署の方々がキャリアコンサルタントを取得し、商工系の方々が社会教育士を取得するのは、非常に大きな意味が出てくる。これにより支援を始めて効果があるとなったら、全国に広がっていくと思う。（乾委員）</p>	<p>推進の方向性に、専門的な知見を有する者を活用しながら、県職員の専門性も併せて向上を図る旨を記載。</p>	<p>第2章 3(2)イ P.30</p>

11	<p>地域の中で、同じ学びを通じて共通する仲間づくりができ、新しく地域で活動していこうという原動力が生まれる。その部分の仕組みとリカレント教育をリンクさせていくと、今後公民館が、若い人たちが活動していく仕組みに取り組むことによって、持続可能な公民館づくりができていくと思う。 (松本委員)</p>	<p>推進の方向性に、市町村公民館の役割として、キャリア形成に関する学びに期待する旨を記載。</p>	<p>第2章 3(1)ア P.27</p>
12	<p>多様な学習機会の充実について、企業のところに、リスキング、企業内での学びについて入れてはどうか。 (渡部委員)</p> <p>リスキングの言葉を入れるのであれば、主語が個人ではなく企業となるので、生涯学習やリカレント教育のように言葉を定義づけする必要がある。 (乾委員)</p>	<p>推進の方向性に、企業においてもリスキングの必要性が高まる中で、社員の個人的な学び直しへの支援を期待する旨を記載。</p>	<p>第2章 3(1)イ P.28</p>
13	<p>県内企業が必要とするスキルを開示するようなものがあるとよい。そして、学習者の持っているスキルを見える化できるとよい。 (渡部委員)</p>	<p>推進の方向性に、学習者のスキル等を記したジョブ・カードの活用を企業に期待する旨を記載。また、リカレント教育推進協議会の役割として、産業ニーズの共有を記載。</p>	<p>第2章 3(3)イ P.31</p> <p>第2章 3(4)ア P.32</p>
14	<p>生涯学習パスポートについては、取得と活用の仕方を工夫すると普及が進むと思う。 (安藤委員)</p> <p>今の状況でうまく活用できていないのであれば、検証して改善した方がよい。生涯学習パスポートを持っている意義を見出せるとよい。 (濱詰委員)</p> <p>普及の目的を明確にする必要がある。学習啓発が目的なのか、学習成果の活用が目的なのか、それによって施策が変わってくる。 (乾委員)</p>	<p>推進の方向性に、生涯学習パスポートの、学びを地域社会での活躍につなげるための機能充実の必要性を記載。</p>	<p>第2章 3(3)ウ P.31</p>
15	<p>生涯学習パスポートをどのように周知するか、どのようにパスポートを配付するかという仕組みがあるとよい。 (松本委員)</p>	<p>推進の方向性に、方策検討の上、生涯学習パスポートの周知・普及を図る必要性を記載。</p>	<p>第2章 3(3)ウ P.31</p>
16	<p>常に学習を重ね、時代の変化に追いつく人材を育てることが重要。その中で「社会とつながる」という目標はよいと思う。文化教養系の講座でも地域に還元したり、地域の子供たちに教えてあげたりするような場面が見られるようになると思う。 (渡部委員)</p>	<p>推進の方向性に、学習成果を社会に生かす仕組みづくりの「学習成果の評価の充実」と「生涯学習を支える人材の活用」として記載。</p> <p>活躍イメージに、地域社会での活躍の流れを記載。</p>	<p>第2章 3(3)イ,ウ P.31</p> <p>【参考】 P.33</p>

17	<p>生涯学習やリカレント教育を体験しているが、それ自体を知らないという方もいる。身近な学びをどう捉えるかが重要で、公民館や子育て、生活の中での学びも生涯学習である。それらを含めた生涯学習とは何なのかというポイントがわかるとよい。</p> <p>「生涯学習パスポート」をどのように活用するかによって、生涯学習を知ってもらうきっかけになると思う。</p> <p>(濱詰委員)</p> <p>普及することで生涯学習に対する意識を高めたり、こんなものも生涯学習になるという気づきで、生涯学習の定義を広げていくことができる。</p> <p>(乾委員)</p>	<p>推進の方向性に、生涯学習パスポートを活用し、学習の動機付けにつなげる旨を記載。</p>	<p>第2章 3(3)イ P.31</p>
18	<p>県内企業において、社員の学び直しがどう評価されているかを把握し、学習の意義を企業側に啓発することが必要である。</p> <p>(乾委員)</p>	<p>推進の方向性に、学習の意義や価値についての地域や企業等への啓発について記載。</p>	<p>第2章 3(1)イ P.28</p>
19	<p>「学習成果を社会に生かす仕組みづくり・学習成果の評価の充実・民間への期待・企業」に、需要が増加する新しい分野への労働移動を円滑に行うという文言を入れてはどうか。</p> <p>(渡部委員)</p>	<p>推進の方向性に、職種や職場の転換の機会が増える旨を記載。</p>	<p>第2章 3(3)イ P.31</p>
20	<p>「学習相談の充実」と「学習者と社会をつなぐ相談体制の構築」というのは同じことであるので、分ける必要はないのではないか。</p> <p>(久留島委員)</p>	<p>概要版「推進の方向性」学習成果を社会に生かす仕組みづくりに、学習相談と同様に、学習者と社会をつなぐ仕組みとして記載。</p>	<p>概要版6 第2章 3(3)ア P.31</p>
21	<p>市町村や産学官の連携や協働は大事なポイントだと思うので、もう少し具体的に書いた方がよい。様々な方々がどのように関わっていくかが見えると、全体的な相関が見えてくると思う。</p> <p>(濱詰委員)</p> <p>具体的というのは、2種類あって、登場する人がセンター、図書館、博物館などの参画者を指すのか、もう一つは、協働による行動の実施、情報の共有などの具体的な行動を指すのか、具体的なイメージをつくった方がよい。</p> <p>(乾委員)</p>	<p>推進の方向性、活躍イメージに、市町村や産学官の連携内容について記載。</p>	<p>第2章 3(4)ア P.32 【参考】 P.33</p>
22	<p>現状と課題に、「福祉機関やNPOと連携し、障害者の学びを支援」という言葉が入っているので、方向性にも障害者も社会で活躍できる、という言葉を入れてはどうか。</p> <p>(渡部委員)</p>	<p>推進の方向性に、障害者の生涯学習機会を充実する旨を記載。</p>	<p>第2章 3(1)ア P.27</p>
23	<p>小中高の教育の中で学ぶ楽しさを教えることができなかつたことに尽きるのではないか。学校教育における取組をどこかに入れてもよいのではないか。</p> <p>(久留島委員)</p>	<p>推進の方向性に、生涯にわたる学習の意欲喚起について記載。</p>	<p>第2章 3(1)イ P.28</p>